

いかにアメリカが ISIS を助けていたか

最近、極秘を解かれた文書が、再び、アメリカが ISIS 台頭の共犯者であることを明らかにした

【訳者注】この問題はわかりにくいですが、アメリカ (CIA) と ISIS やアルカーイダの関係は、その養育を含めて、マフィアとその手下の関係ではなかろうか？ ただ違うところは、アメリカと ISIS の間にはマフィアのような忠誠の観念がなく、傭兵としてカネでつながっているだけなので、容易に裏切ることもできる。しかし、カネがもらえなくては傭兵側も困るので反逆はできず、アメリカも、たとえ育てた者たちのコントロールができなくなっても、カネと武器を与えて利用することはできるので、共につかず離れずの関係にある。したがってアメリカは、時々この「人類共通の敵」を攻撃するふりをするが、実は大切に援助している。要するに、両者の関係は墮落しきった「腐れ縁」そのものと考えてよい。

大量の武器が敵の手に渡っても、いっこうに意に介さないアメリカの態度が、そこから理解できる。「“モスルだけで 2300 車両” : ISIS の手に渡った米兵器」を参照されたい。

By David Mizner

June 2, 2015

2014 年 10 月、バイデン米副大統領は、アメリカの同盟国（複数）が ISIS を支援したと行って公的に非難した。その前月、デンプシー将軍が上院兵役委員会で、アメリカの“アラブ同盟国”が、このグループに資金を与えていると言ったばかりだった。

<https://www.youtube.com/watch?v=nA39iVSo7XE>

米高官たちは、ISIS を援助している彼らの同盟国を、あまり厳しく非難しないで、その問題から距離をおこうとしている。バイデンは、彼らによる ISIS の武装は意図的ではなかったと言って、直ちに謝罪した。

この同盟国へのおだやかな批判は、ISIS 爆撃を始める決定を売りつけようとするアメリカの高官たちの試みの最中に起こった。この時までには、このグループはすでに、東シリアと西イラクを確実に手中にしていた。しかし、それ以前の何か月、何年もの間、オバマ政権が従僕国家に対して、ISIS がこの地域の強国にならないように努力せよと言った証拠はない。

アメリカ自身が、シリアに武器を送り込みつづけていた——その一部が ISIS の手に渡るのが確実であったにもかかわらず。「我々は FSA (自由シリア軍) の我々の兄弟とよい関係にある」と、ISIS のリーダー Abu Atheer は、2013 年、アメリカが援助している FSA について言った。彼は、ISIS が、対空ミサイルと対戦車兵器を FSA から買ったと言った。

<http://www.aljazeera.com/blogs/middleeast/2013/07/80596.html>

最近、極秘を解かれたアメリカ軍情報文書は、アメリカの共謀を示す更なる証拠である。以前は「秘密」扱いであった、2012 年 8 月の国防情報局のある報告が、保守派グループ Judicial Watch の手に入れたひと包みの文書の中に見つかった。

主流新聞と共和党政治家は、この包みの中の別の文書——2012 年のリビア、ベンガジの米領事館襲撃に関するもの——に焦点を当てていた。このほとんど見過ごされていた文書は、ISIS の誕生だけでなく、シリアの反政府軍の構成や、その外国の支援者との関係についても、公式説明とは矛盾するものだった。

「Aug 5, 2012 DIA (国防情報局) 報告は、アサドが、シリアの内外の彼の敵についてずっと言ってきたことの多くを確認するものだ」と、“テロ・アナリスト” Max Abrams は言っている。<https://twitter.com/MaxAbrahms/status/602478514823135232>

この報告は、イラクでエスカレートする暴力が、アメリカの新聞のトップ項目にならなくなり、シリア戦争の扱いが——ワシントンの議論を反映して——アサドに敵対する勢力でなく、アサド政権に集中していた時期に関連するものである。これは現在、ISIS が米政府の大好物の怪物になっていることを考えると、想像しがたいかもしれない。しかしこれらの数か月間、オバマ大統領とそのチームが行ったスピーチは、このグループを全く抜きにしたシリアの説明だった。

ISIS が 2014 年 1 月にファルージャを占領した後でさえ、体制派メディアのこのグループに関する議論はほとんどなかった。2014 年後半になって——彼らの続く勝利と過剰に宣伝された西洋人首切りの後で——やっと「イスラム国」が“公敵ナンバーワン”になった。

米高官たちは、ISIS の台頭は、米情報部にとって寝耳に水であるかのように言った。<http://time.com/3442254/obama-u-s-intelligence-isis/> しかし 2012 年の報告では——これは米政府内に広く流布された——DIA は、東シリアでの“サラフィズム主権国家”の誕生を予見していた。<http://www.judicialwatch.org/document-archive/pgs-287-293-291-jw-v-dod-and-state-14-812-2/> 報告はさらに、「イラク・イスラム国」は、「モスルとラマディの元のポケットに帰り」、西イラクと東シリアに、一つの「イスラム国」を宣言する可能性が

あると言っていた。

それだけでなく、報告は、「イスラム国」の創造は、まさに反政府側を支持する外国政府の目標だったと言っている――

もしこの情勢が展開すれば、東シリア (Hasaka と Der Zor) に、宣言または非宣言の、サラフィズム主権国家が生まれる可能性があり、これはまさに、シーア派の拡張 (イラクとイラン) の戦略的な深層と考えられているシリア政権を孤立させるために、反政府側を支持する国家が望んでいるものに他ならない。

この文書はそれ以前に、少し異なった文脈で、“支持する国家”を“西洋諸国、湾岸諸国、およびトルコ”と同定している。それを読めば、少なくとも 2012 年の初めには、アメリカは、その従僕国が「イスラム国」の創造を望んでいるのを、知っていたことがわかる。それから 2 年ほどして、アメリカは、演技としての「イスラム国」への抗議をちらつかせるようになる。

もっと広く言えば、アメリカは、「イラク・イスラム国」を、2 国の大きな部分を占領し荒廃させた、地域的権力国家に拡大させてしまった、シリア政府との戦いに参加していたのである。そのような結果になるのは予言できた。そして実際、アメリカ政府自体によって予言されていた。

アメリカの政治家や専門家たちは ISIS の台頭を、前イラク大統領 Nouri al-Maliki と Assad のせいだとし――または米軍のイラク撤退のためだとしていたが――DIA (国防情報局) 報告は、ISIS 台頭のカギとなる出来事は、それに呼応してシリアに起った反乱だと示唆している。DIA 報告を初めて分析したジャーナリスト、「レヴァント・レポート」の Brad Hoff は、「生まれかけたイスラム国が一つの現実となったのは、シリアに反乱が起ったためだということ、…米軍のイラクからの撤退が、触媒になったとは言っていない」ことが、そこからわかってくると言っている。

<http://levantreport.com/2015/05/19/2012-defense-intelligence-agency-document-west-will-facilitate-rise-of-islamic-state-in-order-to-isolate-the-syrian-regime/>

マリキ大統領は、シリアの戦争はイラクを巻き込む可能性があると言ったが、アメリカとその同盟国はこの反乱を支持し続けている。

[http://www.aawsat.net/2013/02/article55294134/maliki-warns-syria-conflict-could-](http://www.aawsat.net/2013/02/article55294134/maliki-warns-syria-conflict-could-engulf-iraq)

[engulf-iraq](http://www.aawsat.net/2013/02/article55294134/maliki-warns-syria-conflict-could-engulf-iraq) アメリカの ISIS への爆撃は比較的軽く、散發的で、アメリカはこのグループを打ち負かそうとは思っていないと、多くのイラク人は考えるようになった。

http://www.huffingtonpost.com/2015/03/25/united-states-fight-isis- n_6939066.html

公的な筋書きによれば、アメリカは、“穏健な”反乱者を支持することによって ISIS を弱めようとしてきた。(オバマ大統領は、反乱グループを武装するのが常なのに、シリアでは反乱グループを武装しないと行って、いつも批判されている。

<http://fair.org/blog/2015/02/22/us-backing-for-moderate-syrian-rebels-long-reported-continually-forgotten/>)

アメリカが自国軍を訓練する決定をしたのは、彼らが、支持できる穏健なグループを見つけられなかったということである。前アメリカ大使 **Robert Ford** は、そのことを認めてこう言った：——アメリカの援助するグループが、アルカーイダの分派「イラク・イスラム国」から出たアルヌスラ・フロントと協働していたとき、「長い間、我々は見当違いをしていたのだった。」 <http://www.mcclatchydc.com/2015/02/18/257024/once-a-top-booster-ex-us-envoy.html> 多くの“穏健な”反乱グループ——「CIAの援助する反乱ユニットすべて」——はアルヌスラ・フロント及び ISIS と合流してしまった。

[http://www.wsj.com/articles/covert-cia-mission-to-arm-syrian-rebels-goes-awry-](http://www.wsj.com/articles/covert-cia-mission-to-arm-syrian-rebels-goes-awry-1422329582)

[1422329582](http://www.wsj.com/articles/covert-cia-mission-to-arm-syrian-rebels-goes-awry-1422329582) この年もっと早くに、主要なアメリカの支援するグループ **Harakat al-Hazm** は、アルヌスラ・フロントを負かすことができなかった——それで彼らと合流してしまった。

2012 DIA 報告が強調している、長く隠されていた真実は：——シリアの戦争の最初の段階以後は、シリア政府に対する戦いを単に支援することは、ISIS を助けることだった。

ISIS の台頭にアメリカが共謀しているということは、変則的なことではない。第二次大戦以後いろんな時期に——最も悪名高いのは 70 年代と 80 年代のアフガニスタンだが——アメリカは、そのより直接的な本来の敵を倒す目的で、ジハーディスト (とその先駆者) を武装させ、同盟を結び、強化する方針を取った。<https://www.jacobinmag.com/2015/01/united-states-saudi-arabia-isis/>

しかも人は、その前例を求めて歴史を調べる必要もない。いま現在も、戦闘員を最初の土台から作ろうとして、アメリカはシリアで、その代理兵を、アルヌスラ・フロントに合同させようとしている。そして湾岸諸国とトルコの新しい共同作業にゴーサインを出して、アルヌスラ・フロントや他の反動的グループを含む、反政府連合体を武装させようとしている。

もしアメリカが本当に、ISIS やアルカーイダを敗退させようと思っているなら、彼らを強化するのを止めるはずである。